

地名が持つ意義

太田幸成 23B10621
東京工業大学 工学院

1. はじめに

地名には何らかの意義があるのだろうか。地名は人々が名付けたものであるから、地名の意義を知ること、人々がその土地に対してどのような意識を持っていたのかがわかるだろう。

2. 方法

地名のもつ特徴の傾向を知るために、ksf (Kanji Statistic Filter) を用いて、地名に含まれる漢字を集計した。地名は、国土地理院が出版している『地名集日本』(2022)に掲載されているものをすべて(4123個)採用した。この地名集のデータは、2021年3月現在である。

3. 結果

集計結果は表1のようになった。1~8位は土地の種類を表す漢字であった。「田」「野」「埼」のような、地形を表すような漢字が多いことがわかる。また、「南」「上」のような、方角や方向を表す漢字も多かった。漢数字も比較的多かった(「三」・・・23位、「八」・・・44位)。

表1: 地名に含まれる漢字とその数(上位30)

順位	漢字	数	順位	漢字	数
1位	市	808	16位	津	84
2位	山	804	17位	北	81
3位	町	749	18位	岬	81
4位	島	484	19位	小	79
5位	海	471	20位	平	76
6位	川	456	21位	原	75
7位	岳	211	22位	日	73
8位	村	199	23位	三	71
9位	大	195	24位	木	68
10位	田	144	25位	別	66
11位	野	140	26位	西	64
12位	崎	123	27位	上	63
13位	南	90	28位	戸	53
14位	高	89	29位	中	53
15位	東	89	30位	伊	52

4. 考察

柳田國男は『地名の研究』の中で、地名は発生の古いものから、①利用地名、②占有地名、③分割地名の順序となっている。利用地名とは、かつて通過・旅・水運の目標としたものである。地形を表す漢字が用いられた地名が多いことから、このような経緯で生まれた地名が多いといえる。占有地名とは、人が土地を区画して、これだけは自分のものであるとして名付けた地名である。占有地名の由来はその土地によってさまざまである。個人名から名付けられる場合もあれば、「材木町」「塩屋町」のように、商業を営む同業者の名前から名付けられる場合もある。何らかの傾向があるわけではないため、占有地名に見られるような漢字が上位にくることはなかったと考えられる。分割地名とは、すでに区画されている地域を分けるとき、今までの地名を保存し、上・中・下、東・西・南・北を冠するものとされている。3. 結果で述べたように、このような漢字は多くみられた。既に存在している土地をさらに分割するということが多くあったと考えられる。

5. おわりに

今回は、地名に多く見られる漢字を調べ、地名の特徴の傾向を知った。そして地名の起源について考えることで、人々がどのようにして土地に地名をつけ、土地を分割していったのかを考察した。地名について研究することで、当時の住民の生活を明らかにすることができたといえるだろう。

文献:

国土地理院『地名集日本』(2022)

柳田國男『地名の研究』(1936)

池田昭『地名と社会科教育』(1984)1984
巻52号pp.1-12

https://doi.org/10.18992/socialstudies.1984.52_1

関戸明子『地名研究の視点とその系譜』歴史地理学, No.140, pp.17-27, 1988.3